

できる



する

つながる 体育

支える



かかわる

わかる

見る

平成28年2月5日体育専科 永井悠介

スケート授業が終了

人間は生まれてすぐに親と同じように行動できません。ですから、自分の体が自由に動けるようになっていくことにおもしろさを感じます。できないことや動きができるようになっていくおもしろさが、体育のおもしろさの“もと”になると言われています。

スケートの授業が全て終わりました。低学年のスケート授業では、毎時間できなかった動きが少しずつできるようになりました。「今日もスケートの勉強が楽しかった!」と、体育のおもしろさを感じている子供達を見ていると幸せを感じました。スケートをはいて立つのがやっとだった1年生の児童にとっては、ペンギンの足で歩いたり、ジャンプをしたり、片足に体重をのせて大またで歩けるようになったりなど、思い通りに滑れるようになっていくおもしろさを感じることができたのではないかなと思っています。



ひもしばりの協力を感謝です

さらに授業が終わると、着脱場所に戻ってくる子供達に対して、「〇〇さん、昨日より上手になったね。」と、言葉をかけてくださる保護者の方がたくさんいらっしゃいました。自分では気づきにくい努力の成果について、友達や先生以外の人からの言葉に子供達はとても嬉しそうな表情をしていました。寒さや足の痛みに耐えながら頑張っている子供達にとっては、ホッと心が温まる励ましの言葉になっていたように感じます。ご自分のお子さんだけではなく、学級や学年の子供達を見てくださっていることにありがたい気持ちになりました。

そして、毎回の授業ではたくさんの保護者の方にひもしばりのお手伝いをいただきました。寒い中、何人もの子供達のひもをしばる作業は、保護者の皆様にとっても寒い、手が痛い時間ではなかったでしょうか。家で炊事をほとんどしない私ですら、子供達の靴ひも結びによって手がひび割れるのですから、保護者の皆様はもっと大変だったことを察します。子供達のために、本当にありがとうございました。



たくさんの声援が力になりました

つながる体育

する

見る

支える

スケートの楽しさが変化！？

スピードスケートは、「自分の力だけで最も早く走れるスポーツ」と言われるように、より速く滑ることを目指します。5年生や6年生では、500mを1分間程度で滑りきる人もいます。そのスピードは、なんと時速30kmほどになります。授業でも、ひざを曲げることを身に付けるために「ひげじいさん」をしたり、コーナーで体を倒せるようにするために「クロスして近く」の練習をしたりなど、速く滑るポイントについて学習しました。

先ほどのおもしろさで言えば、滑りが上達すればするほど「競争する楽しさ」「克服する楽しさ」とスピードスケートの楽しさに発展していきます。スケート記録会は、正に自分の記録に挑戦する機会と言えます。

しかし、スケートを始めたばかりの段階や低学年では、「ブレーキができるようになった」「トントンスーとリズムよく滑れるようになった」などの“できるようになる楽しさ”をたくさん感じてほしいとも考えています。スケート記録会が終わったあとの授業では、友達とのかかわりの中で滑ったり、動きをそろえて滑ったりをしました。



友達と一緒に“できる”をふやす（2年生）



できることを使って
たくさんの友達とかわり、さらに技能アップ（3年生）



記録計測、リレーで
速く滑れるようになる楽しさ（5・6年生）

2年生の児童が、「先生、次はコーンをたくさん置いて、うねうねコースを作って滑りたいです。」と、目を輝かせていました。「うねうねコースでも大丈夫！」と、思えるくらいスケートにのれるようになった証だと思います。何年か後には、「先生、次は500mを○秒で滑りたいです。」と、楽しさをレベルアップしているはずです。

【予告】1月中旬にスポーツ庁より今年度実施した全国体力・運動能力、生活習慣等調査の結果が届けられました。今後、体育だよりを通じて結果をお伝えします。